

朗読教材としての『徒然草』

まずは『徒然草』を音読する

古典の学習では、よく音読をします。この音読のさせ方が重要です。以下の流れで『徒然草』を音読していききました。

(1) 教師の範読

途中で止めて若干の説明を加えながら、まず授業者が範読します。CDなどではなく、授業者が自分の声で範読した方が、止めたり、説明を加えたりと、自在に進めることができます。

(2) 全員で斉読

次に、全員で斉読をします。斉読のよい点は、みんなで合わせようとするため、自然とゆっくり読むことができる点です。また、間違った読みをしたときには、自分ですぐに気づき、修正することができます。慣れてくれば、一定のスピードでの斉読を目指します。

(3) 楽しく音読

学習形態を変えながら楽しく音読していくうちに、いつの間にか正しく読めるようになっていくことをねらいます。個人、一斉、ペアの音読を取り入れます。ペアでは、二人一組で一文ずつ交互に読むようにします。繰り返し読んでいるうちに、ほとんど暗唱してしまうのが理想です。

(4) 内容理解のための音読

ペアで、古文と現代語訳とを句読点で切りながら交互に音読させます。こうすることで、一通り理解した意味が音声となって入ってくるため、より一層理解度が増すこととなります。また、学級を2グループに分けて、同じように読ませます。

『徒然草』の朗読プランと朗読発表会

(1) 朗読プランの作成

今までの内容理解に基づいて、各自に朗読プランを作らせます。自分はどうのように読みたいのか、記号や言葉で書かせます。微音読しながらプランを考えてもかまわないことにします。

(2) グループ学習

ここでは、グループを作ることが重要なのではなく、個人がいかに朗読できるかが大切です。そこで、男女混合6～7人からなるグループとします。話し合いや作業には不向きですが、発表活動を優先させることにします。一人一人に朗読プランを発表させ、互いによいところをメモし、自分の朗読に取り入れるようにします。

(3) 朗読発表会

発表の場は、全体ではなくグループ内とします。まだ人前で朗読することには慣れていないため、緊張の度合いが少ないと思われるグループ内とします。また、全体では時間がかかりますが、グループだと短時間で効率よく進めることができます。発表するだけでなく、互いに相互評価を行います。互いのよいところを認め合えるようにし、次の発表への意欲づけとなるようにします。